

1 研修事業名	平成 29 年度アセスメント研修 「“意思決定支援”」(入門編)
2 事業目的・ねらい	利用者の意思決定を支援することは、必ずしも障害の分野だけに限られたことではありません。利用者の自己決定を尊重すること、最善の利益を守ることはどの社会福祉領域においても重要な視点であり、そのためには意思決定支援の仕組みは必要と言えます。本研修では、意思決定支援の基本理念を学ぶとともに、現場で実践するための方法を講義や演習を通して学び、アセスメント力の向上と意思決定支援の取り組みが各組織の中で定着していくことを目的とします。
3 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援の基本理念や原理原則を理解するとともに、自らが関わる利用者支援においても重要な仕組みであることを確認する。 ・意思決定支援のプロセスを導入していくにあたり、利用者や事業者にとってリスクとなりうることを理解する。 ・利用者の意思決定を支援するために、アセスメントや記録、コミュニケーションの方法について学び、意思決定支援をする上での視点を身に付ける。 ・講義や演習で学んだことを持ち帰り、他職員へ伝えるとともに、いま自施設で現状や出来ることを考え、実践につなげられるようになる。
4 対象者	県内社会福祉施設等の中堅職員や指導的職員にあたる方 定員 36 名程度
5 科目名	平成 29 年度アセスメント研修 「“意思決定支援”」(入門編)
6 講義担当者名	鈴木 敏彦氏 (和泉短期大学 教授)
7 講義の日程	3 月 1 日 (木) 10 時～16 時
8 時間数	6 時間 (休憩 1 時間含む)
9 講義の方法	講義・演習
10 科目のねらい	意思決定支援の基本理念を理解し、現場で実践していくために必要なスキルや視点を講義や演習を通して学びます。また受講者が学んだことを自施設に持ち帰り、その内容を伝え、施設・事業所で意思決定支援の取り組みにつなげられるような学びの機会とします。
11 科目の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援ガイドラインから読み解く基本理念 ・意思決定支援におけるリスクマネジメント ・利用者の可能性を引き出すアセスメントや記録、コミュニケーションの方法 ・意思決定支援を推進する組織づくり ・意思決定支援の取り組みに向けて、援助者として、いまできること
12 使用テキスト	講師作成のレジュメ
13 使用教機材	パソコン、プロジェクター